

(4) 人口増加に対応した新たな農業の展開方向について

想定課題

国会等の移転に伴い、定住人口や交流人口が増加することによって、本県の食料消費が増加するが、その場合の農産物の生産や流通など新たな本県農業の姿はどのようになるか。

対応方向

消費地が近接して立地する条件を生かして、多様な消費者ニーズを的確に反映した多彩で高品質な農産物生産への転換や新しい販路の開拓、流通コストの低減など、ビジネスチャンスを生かした多様な農業の展開も可能になると考えます。

このような効果は、那須地域のみならず、県内の農産物の生産や流通システムにも大きな影響を及ぼすことが予想されます。

このためにも、「生産された農産物売る」という視点から、「売れるものを生産する」との視点に立ち、県全体として消費者が求める食料を安定的に供給するための生産構造への変革を進める必要があります。

また、都市住民の多様な余暇需要に対応し、農村の持つ空間や農業とのふれあいの場の提供等を新たなビジネスとして創出するため、市民農園や観光農園等の設置も検討する必要があると考えます。

『平地稲作地帯の目指すべき展開方向』

【イメージ】 新住民と既存農村が一体となった田園居住地域

1 目指すべき展開方向

チャレンジ精神あふれるアグリビジネス地域

- ・新都市の質的・量的需要に対応した高度園芸産地の確立
- ・省エネ型施設園芸団地の整備
- ・多様な流通経路や販売体制の確立
- ・自然循環機能を生かした農業の展開
- ・大規模な土地利用型農業の展開

新しいカントリーライフの舞台

- ・「食」や「農」を通じた新住民と既存住民の交流
- 住宅地、自然環境が計画的にデザインされた農村地域
- ・住居系都市整備に先行した計画的な土地利用の促進
 - ・快適な農村集落の整備
 - ・水を生かしたうるおいある農村の整備
 - ・地域環境保全活動の推進

2 地域の将来イメージ図

